

### 3 一人で抱え込まず、チームで対応

一人では、見にくかったものも見えてきます。

「実態把握」(「気になる行動」の背景を探る作業)では、

かかわりのある複数の人(学年、学部等)で

対応が難しいと思われるケースは・・・

○速やかに管理職に相談を。

○特別支援教育コーディネーターや相談・支援を担当する分掌との協力  
○外部関係諸機関や専門家等との連携

- ・「気になる行動」への対応を一人で抱え込み続けると、教員の側にも気持ちの余裕がなくなってきます。
- ・また、その場の感情に任せた「力づくでの指導」「暴言」などの行為につながります。
- ・体罰は、暴力・暴言・放置などにより、児童生徒に身体的・精神的苦痛を与えるものです。決して情熱的な指導などではありません。児童生徒を深く傷つけ、児童生徒の人権を踏みにじる行為です。

### 4 保護者との信頼関係づくり

児童生徒を一番に支えているのは保護者です。

- ・まずは、保護者の話にじっくりと耳を傾け、その思いや不安を十分に受け止めましょう。そして、これまでの苦労や努力に共感し、共に考えていく姿勢を見せることが大切です。
- ・保護者とは、児童生徒の「気になる行動」への対応のみを話し合うのではなく、その「背景」を探る視点を共有しましょう。
- ・学校からの情報提供は積極的に行います。その子の努力と共に「できること」「得意なこと」「好きなこと」については、随時、保護者に伝え、児童生徒の成長を共有していきましょう。

本リーフレットを活用した研修モデルを総合教育センターHPに掲載しています。各学校では、ぜひ積極的に校内研修を実施し、適切な指導に努め、すべての児童生徒がのびのび学べる学校づくりを進めましょう。

埼玉県立総合教育センター <http://www.center.spec.ed.jp/>

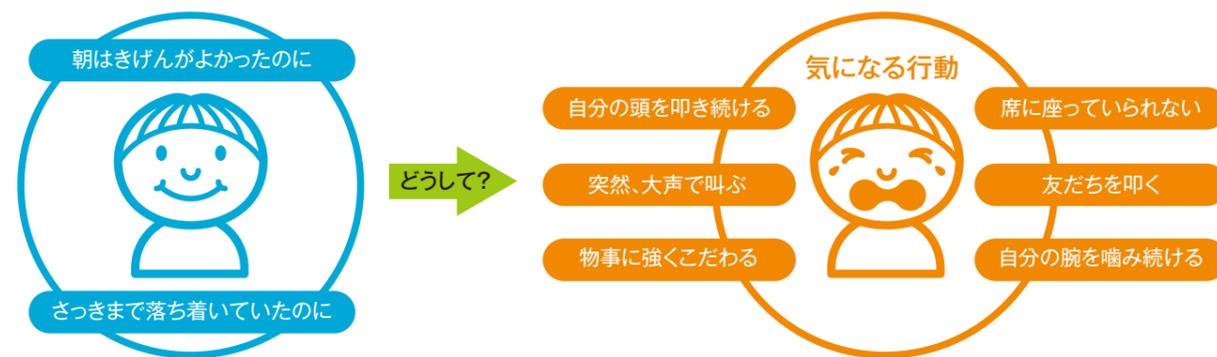
#### 指導・支援の手がかりとなる情報先

国立特別支援教育総合研究所	<a href="http://www.nise.go.jp/">http://www.nise.go.jp/</a>
国立教育政策研究所	<a href="http://www.nier.go.jp/">http://www.nier.go.jp/</a>
埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」	<a href="http://www10.ocn.ne.jp/~mahoroba/">http://www10.ocn.ne.jp/~mahoroba/</a>
発達障害情報・支援センター	<a href="http://www.rehab.go.jp/ddis/">http://www.rehab.go.jp/ddis/</a>

## 一人一人を大切にしている指導の 充実のために

～障害の特性の理解とていねいな実態把握に基づいた対応を～

児童生徒は、学校生活をはじめとする様々な場面で、時として「気になる行動」や「すぐに止めさせたい行動」をとることがあります。



- ・けがをしてしまう可能性がある危険な行動は、速やかに制止しなければなりません。
- ・しかし、「気になる行動」をどのように制止するか、という対応だけでは不十分です。
- ・力による制止は、行き過ぎた指導や体罰になりかねませんし、根本的な解決になりません。
- ・力による制止で本人の興奮がますます高まるなど、新たな問題行動への引き金になってしまうこともあります。

#### ◎ポイント1 児童生徒の「気になる行動」は、児童生徒からの「メッセージ」

「どうしたらよいか」を考える前に、「なぜ、そのような行動をしたのか」を考えましょう。  
「気になる行動」をなくそうとするだけでなく、「適切な行動」が増えるように手立てを考えましょう。

#### ◎ポイント2 児童生徒の「気になる行動」を「チェック」

「気になる行動」は、一日中、絶えず起こるわけではありません。一定条件のもとで起こることが多い傾向にあります。次の観点で「気になる行動」を見直すと対応の手がかりが見えてきます。



# 1 児童生徒の特性の理解

一人一人を大切にすることが第一歩です。

## (1) 知的障害のある児童生徒の場合

視点	具体的な例	対応のポイント
理解力と表現力	・見たことや聞いたことを整理することが苦手である。 ・理解したことや考えたことを分かるように表現することが苦手である。 ・模倣しようとしても正確にはできない場合がある。	・その子なりの学び方を知り、理解しやすい教え方を工夫する。 ・その子なりの表現の仕方を認める。
抽象化と一般化	・今までの経験を踏まえて臨機応変に対処することが苦手である。 ・今までと異なる状況でも、それまでのやり方で解決しようとする傾向がある。	・初めてのことについての説明は具体的に説明する。 ・できるかぎり、体験を通した学習を工夫する。
記憶すること	・一度に複数の指示を与えると抜けおちたり混乱したりしてしまうことがある。 ・順序よく話さないと混乱してしまうことがある。	・重要なことは、「短く」「具体的に」「一つずつ」指示するようにする。
見通し	・先のことを予測し計画を立てて行動したり、その時の欲求をコントロールしたりすることが難しい場合がある。	・課題は見通せるように、一つ一つ噛み砕いて、理解に合わせて提示する。
コミュニケーション	・自分の気持ちを言葉で伝えることが難しかったり、発音が不明瞭で話していることが分かりにくかったりする。 ・話しかけても応答しようとしていない場合がある。	・ゆっくりと分かりやすい言葉で伝える。 ・絵、写真、身ぶりなども交えてやりとりをする。
注意の集中	・注意が向かなかつたり、持続しなかつたりするため、活動に参加しにくくなる場合がある。	・興味をもてる活動の設定や見通しのもてる情報の提示を心がける。

## (2) 自閉症のある児童生徒の場合

視点	具体的な例	対応のポイント
人とのかかわり方	・人とのかかわり方が一方的で、他者の気持ちを察することが苦手である。 ・興味や楽しみを他者と共有することが苦手である。	・まちがいを強く叱責せずに、うまくいったことを具体的に評価する。 ・どうしたらよいかを具体的に教える。
言葉によるコミュニケーション	・状況や場面に合わせて話すことが苦手である。代名詞やあいまいな表現が理解しにくい。 ・「行間を読む」のが苦手である。冗談や皮肉が通じにくい。 ・話し言葉でくり返し(しつこく)指示されても、わかりにくい。	・文字・絵カード・写真・実物など、見て確認できるものも活用し、できるだけ具体的な言葉で話しかけたり、指示したりする。 ・ルールを具体的に伝える。
環境の変化への対応	・急な予定変更が苦手である。いつもと同じ手順やスケジュールでないと戸惑う。物の置き方や道順の変更をいやがる。 ・「何を」「どのくらい」「いつまで」やるのか、などがわからないと戸惑う。	・変更がある場合は、見て確認できるものなどを活用して事前に説明する。 ・手順や活動の流れを明確に説明する。
独特なこだわり	・特定のものに執拗にこだわり、手放そうとしない。同じ色、同じマークの付いた服しか着ようとするなど。	・無理に取り上げずに、少しずつ他のものに変えていくようにする。 ・理解しやすい指示をしたり、本人の体調を整えたりして、全体的な調子を上げるのもよい。
感覚の過敏・鈍感	・人により、聴覚・視覚・味覚・嗅覚・触覚などいずれかの感覚について、極度の過敏がある。 ・痛みや熱さなどの感じ方が鈍く、気が付かないうちに傷ややけどがひどくなってしまうことがある。	・「そのうち慣れるはず」と考えて、無理強いはいしない。 ・行動面だけでなく、身体面の状況についても、ていねいに見ていく。
フラッシュバック	・過去のいやな体験をよく覚えていて、それと似た状況に直面すると、混乱したりパニック状態になったりする。	・過去の経験を知った上で、現在の状況をわかりやすく説明し、安心させる。 ・混乱やパニックがひどい場合、できるだけ嫌な体験を思い出す状況をつくらない。

“こだわりや場にそぐわない言動”は、調子が悪い時(体調不良、睡眠不足等)や不安な時に、強くなる傾向があります。

# 2 ていねいな実態把握

「気になる行動」の背景が見えてきます。

